

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200541		
法人名	株式会社 グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホーム めぐみの丘		
所在地	兵庫県神戸市西区押部谷町福住602-5		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2875200541&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2875200541&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成23年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様の個人個人を尊重し、家庭的で、我家と思えるような暖かいホームを目指しています。主婦手作りの体にやさしい栄養満点の料理の提供を心がけています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①安全・安心な住宅環境・この度、一般戸建住宅を活用した1ユニットのホームから、2ユニットの新築ホームに移動をしたことにより、以前の住宅環境の中では解決が難しかった部分(エレベーターの設置・バリアフリー・消防設備関係等)が改善された。ADL低下に伴う入居者への対応(歩行力の低下や車椅子になった場合の階段昇降の課題)も解決がされた。②アットホームな雰囲気・長閑なゆったりとした立地環境の中で、入居者と職員が「家族」として暮らしている暖かい雰囲気を感ずる。管理者をリーダーに職員とおしの協力体制が伺える。開設当初から培ってきた家庭的な良さが継続されている事が家族アンケート結果からも伺える。④食事を楽しむ支援・食材の調達をはじめ、季節の旬の素材を使った、全食、手作りの家庭的な食事が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念を掲げ管理者、職員はその理念を共有し理念の実践に向け日々取り組んでいる	「個人の尊厳、地域における生活の支援、家族の安心につなげる事」を理念に掲げている。経営方針としても、利用者個々の能力に着目し、社会資源を積極的に活用する様に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移転したため、地域との交流まではいっていません。近隣の方と挨拶を交わす程度である。	建物が出来た際に、地域の方々や消防関係者に見学をして頂いた。近隣にある教会のバザーに参加する等の地域交流を含め、地元の自治会にも協力を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に散歩に出かけ、近くのパン屋を利用したり、スーパーと一緒に出かけたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者、利用者家族様の出席を仰ぎサービスの実際や評価への取り組み状況について説明し、ご家族様からは利用者様への対応に関する要望を聞かせて頂きサービスの向上に努めている	会議への家族参加が少ないので、開催日程等を検討中である。また、ユニット増設(利用者の増加)に伴い、日常の支援内容(ボランティアの活用・レクリエーション・行事等)の見直しも行っているところである。	運営推進会議を活用し、時には会議の議題に沿った方(消防・警察・医療等)も、オブザーバーとして出席して頂く事で、専門的な知識を頂ける機会となります。ご協力を願ってみては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には常時地域包括支援センターの職員が出席しており、顔見知りではあるけれどもそれ以外に行き来する機会はない	会議には地域包括支援センターの職員が出席しており、行政からの情報やアドバイス等を頂いている。今後も、サービスの向上に繋がるテーマを通じて、地域の方や行政との連携を深めることを目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が具体的にどのような行為が身体拘束にあたるかを正しく理解できるよう研修の機会を持ち、理解を深め、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新設されたホームでは、鍵はつけていない。	日中は玄関の施錠はしていない。夜間は、安全の確保のため施錠している。事業所経営者の運営指針に沿って、職員研修を定期的に行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は月1回開く全体会議において勉強会をもちケアマネを中心として虐待防止の意識を共有し事業社内での虐待防止の徹底に努めている	事業所での内部研修が定期的に行われている。今後、夜間想定(一人夜勤)での事例等をもとに、市とも連携し職員の研修に取り組んでいく予定である。	職員のストレスマネジメントにも着目し、職場環境の整備の視点からも、研修機会を持たれることに期待をします。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には身寄りの無い方も含まれており権利擁護に関する制度については職員も理解と活用の必要性を認識している。それらを活用できるよう今後取り組んでいきたい	利用者の中に、身寄りのいらっしゃらない方や、成年後見制度を活用している事例がある。利用者の退所に当たって、成年後見制度の必要性を実感している。	外部研修等にも積極的に参加し、情報を入手することに期待をします。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族様や身元引受人に対しては入所時に重要事項説明書を用い十分な説明を行いまた質問にも答えて理解、納得を図った上で契約を結んでいる。書類には確認のため署名捺印をもらっている	入居に関しての外部との対応は経営者が主体となって実施している。管理者は重要事項や契約書の説明等の実務面に携わっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族様からの意見、要望には運営者はじめ管理者や職員はその都度耳を傾け希望に添えるよう努めている	家族の意向等は、電話連絡時や面会時に聴き取りをさせてもらっている。内容により、必要な事項は、管理者が経営者に直接報告をしている。また、運営者に直接に連絡をしている方もおられる。	頂いた意向・意見の検討手順(受付から処理迄)を事業所内で構築される事を期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり月1回の全体会議を開き原則全員の職員が参加しその場で意見の交換を行い、管理者はその意見や提案を運営に反映させるよう運営者にも伝えている	職員の意見等は全体会議で聴き取っている。また、日常では、申し送りノートを活用して「気づきや意見」を共有している。管理者は、電話やメール・FAXを活用し、運営者に報告をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の勤務状況は把握しており、それぞれの勤務に対する要望にも出来るだけ答えるべく職場環境・条件の整備に努めているし、運営者にも報告し各自が向上心を持って働けるようサポートしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者の指示で外部の研修に参加する機会を持っている。また個人的に資格取得のため勉強を続けている者に対しては実習等への参加には出勤調整などの便宜を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3カ月に1回開かれる西区のグループホーム連絡会には出来るだけ参加し情報交換と交流を図っている。又押部谷地区にある介護関係事業所の連絡会議に参加し同業者との交流を通じサービスの向上に取り組んでいる		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みの時点で家族様から困りごとほか話をうかがっており、その後ご本人の訪問を受け信頼関係を築き納得の上入所して頂いている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた時点で管理者や介護支援専門員は家族様から詳しく入所を必要としている状況を聞き取ることになっている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所を希望されている方であっても施設のハード面においてどうしても対応出来かねると判断した場合はその旨を伝えて、他の施設、他のサービスを利用してもらえよう願っている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす時間をもち利用者の気持ちに沿えるよう支援している。利用者から教えてもらったり手助けしてもらおう場面もある。そのような支えあう関係が築けるよう努力している		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも利用者を共に支える関係でありたいと連携を密に取るよう努めている。誕生会や行事には参加を呼びかけ共にくつろぎ交流を深めている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの品々を居室に揃えたり、会話の中で馴染みのある言葉を織り交ぜ利用者の古い記憶を蘇らせたり気持ちを和ませたりするよう支援している	個人の生活歴に着目し、思い出の写真や品物等を飾っている。また、ふれあい町づくり主催の県民交流事業に参加している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士が良い関係を保ち助け合ったり支えあったりしている時はそっと見守り、悪い時にはその場を円満に取りもつよう間に入り修復に努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が長期にわたり入院し、ホームを退所扱いになっても、その後の受入先を捜すなど良好な関係を続け支援している。住民票を残してあるある場合には荷物や郵便物を保管したりもしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様から情報を得たりご本人との会話の中でその方のホームに対する思いや希望などを把握するようにしている	本人や家族からの情報をもとに、カラオケやゲーム、体操などの希望に対応をしている。利用者ごとに担当スタッフを決めており、ケアプラン作成時には、本人からの意見を求めるようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで御家族様からお聞きしたり日々の生活の中でご本人の口から語られることによって把握することが出来る		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をしていく中でその方の現状はケース記録に記入されその記録を元にケアカンファレンスを開き把握した情報は職員間で共有するよう努めている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議、随時のミーティング、ケアカンファレンス等開き関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデア、家族様の意向をも反映させた介護計画を作成している	カンファレンスでは、本人本位と能力の活用を重視している。現在は、入居者の人数が増え、新規の利用者のプラン作成や以前からの入居者のプランの見直しに追われているのが現状である。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫など利用者個別のケア記録に記入し、申し送りノートに記入するなど職員間で情報を共有しながら実践をし、介護計画の見直しにも活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者それぞれのその時々生じたニーズに対応して旅行に行ったり、地域のクラブに参加したり生活に張りと感じてもらえるよう柔軟な支援やサービスの提供に努めている		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のグループホームとの交流会に参加している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時には24時間連絡の取れるかかりつけ医があり、ホームとは信頼関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	協力医が病院との連携をサポートしてくれるため、24時間対応が可能であり安心である。歯科の訪問受診もしている。個別のかかりつけ医への受診は原則、家族の対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はホームとしては雇用していないが、日常の介護現場でとらえた情報や気付きはその都度かかりつけ医に伝え相談し適切な指示を受けられるよう支援している		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はこまめに面会をし家族とも出会い本人の状況を正確に把握するよう努めている。なお退院に当たっては関係者病院の相談員等カンファレンスを行い情報の交換や相談に努めている	入院時の対応は、管理者と家族で行っている。退院時のカンファレンスには、管理者以外に計画作成者も同席する場合もある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応や終末期のあり方についてはどこまでホームで対応できるか、関係者と話し合いを繰り返し利用者本人にとってより良い環境を見つけるべく運営者を中心に方針を定め、方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応は、管理者や計画作成者が行っており、家族や利用者の意向を最優先として受け止めている。	介護職が、ターミナルケアに不安(負担)を持たずに対応ができるよう、研修の実施に期待をします。また、グループホームならではの精神的ケアの実施にも大いに期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や心肺蘇生法の講習を以前に受けた職員がいるがすべての職員についての定期的な訓練は行われていない		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えて年2回定期的に消火訓練や避難訓練は行っている。夜間の災害に対しては地域の方々の協力が必要であるため協力が得られるよう日々働きかける必要がある	事業所の引越してから4ヶ月目に訓練を行っており、家族への呼びかけもしている。マニュアルの作成や近隣との連携を課題として取り組んでおり、今後の対策に生かす努力をしている。	夜間は人員が少なくなるので、夜間想定をした訓練等の継続的な実施をすることで、職員や家族の安心感にも繋がることと察します。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の呼びかけ、失禁時にはプライドを傷付けない言葉掛けや対応に心がけている。又入浴時には異性に対する羞恥心に配慮した対応をし、個人情報の取り扱いにはイニシャルを使用するなどプライバシーの確保に努めている	日頃から、「利用者の尊厳」を重視したケアに取り組んでいる。また、羞恥心への配慮に関しては、入浴時、排泄時においても徹底できるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは出来る限り会話の中で自分の思いを表せるよう働きかけ、行事に参加する場合も本人の意思を尊重し、本人が自分で決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の流れの中でもその人のペースを大切に、食事、排泄、入浴、就寝等拒否があったら無理強いしない。声掛けをするうち本人が納得して応じられるまで待ち、本人にとって心穏やかな生活が実現できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何か行事がある時には女性は薄化粧を施し、みながそれを楽しみにしている。家族さんと美容院に行ったり、ホームで毛染めを行ったり、他は定期的に出張美容を利用している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食材切りや盛付け、配膳等もお願いしている。食事は職員と共に隣り合って楽しんで頂きました食器洗いや後片付けも共同で行っている。声掛けはするが利用者様の自主性に任せ無理強いはしていない。	朝食のパンは、利用者に人気の店から購入したり、農家と契約し美味しい新米を使用したりと、食材の購入も工夫している。食事メニューは一週間分を職員が作成し、管理者が見直し、データ化している。手作りの家庭的な食事を提供している。誕生日には利用者の希望を取り入れ、外出に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量、水分摂取量をチェック表に記入し、必要量を確保出来るよう努めている。食べる量や栄養バランスを確保するよう献立をたてているが摂取量が足りないときは形状を変えて飲み込みやすくするなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はそれぞれの利用者の口腔の状況に合わせて歯磨きや義歯の洗浄等、口腔内の清潔保持を支援している		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとの排泄のパターンを把握し自然な声掛けにより排泄を促すことを心がけている。排泄の失敗による自信喪失を防ぐようさりげなく処理をするなど気をつけている。出来る限りトイレでの排泄を支援している	入居者の半数以上が自立または見守りである。夜間にはポータブルトイレも活用して支援している。個々の排泄パターンを把握し、自立の継続に繋げている。	今後も、出来る限り無理のない自立支援のためのリズム作りと、羞恥心への配慮を継続願います。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の日々の排便の状況を把握しており、便秘を予防するためヨーグルトや野菜を多く摂取するよう工夫し、また排便の兆候を見逃さずトイレへ誘導するよう支援している		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯は設定してあるが、入浴の順番等はその日の状況により決めている。夏場にはシャワー浴を行ったりその都度必要に応じて取り入れている	土日の入浴は行っていないが、週二回、平日の午後を中心に、週二回以上の入浴機会を確保している。ADLの低下の場合、シャワー浴で対応が出来る環境である。	「入浴の時間」は貴重な利用者との個別コミュニケーションの機会です。思いを聴きとる大切な時でもあると意識して捉え、ケアに反映されていくことに期待をします。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握し、生活のリズムを作るよう心がけている。その中で気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。居間でウトウトされたり、入浴後部屋でゆっくり休んでもらったり、御自分から部屋に戻られて休まれる時もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書やお薬手帳などを元に利用者一人ひとりの服薬の状況を把握しており薬の種類、用量等間違いの無いよう確認して薬箱にセットし処方どおりの服薬を支援し、又服薬による症状の変化を観察し医師に報告するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた手伝い(掃除・洗濯・調理・後片付けなど)をお願いしているが、自主性に任せ決して無理強いしていない。日課として張りのある生活の一部となっている。日課の中に体操や運動を取り入れている。外出や誕生会などの行事で気晴らしの支援をしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物に行く時は利用者に声をかけ誘って一緒に行くことがある。お花見や行楽には家族様をお誘いして、職員は総出で介助にあつたっている。	近隣への(食材の買物・散歩・郵便局や銀行等の用事への同行等)を日課にしている。近くの教会のバザーに参加したり、全員で紅葉祭りへ車で出かけたりもしている。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。利用者の思いに沿った支援の継続を願います。また、家族との外出も計画に反映させて、利用者の不安への対応に繋げて頂きたい。



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が家族様からお小遣いをもらった時などお金はホームで預かり、買物には一緒に出かけ、本人が希望するものを買ったりすることはあるが、利用者本人がお金を所持することは支援していない		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等に御自分で電話されることもあるし、電話したいと言われる場合には職員がお掛けして取次ぐこともある。手紙についてはご本人の希望で年賀状の宛名を代筆したり支援している		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて暮らせる空間を作り環境を整えるよう配慮している。食堂や居間は採光を広く取入れ風通しも良い。台所からは調理の匂いが漂い生活感があり、居心地良く過ごせている	広がりのある明るい居間と、連続性のある台所が生活観のある空間を感じさせる。出入り口は玄関のみであるが、入り口周りにはプランターがあり、2階へは3人乗りエレベーターが設置されている。	2階の洗濯干し場(ベランダ)は、出這入りに関しての危険が伴うので、場所の変更を含め検討されては如何でしょうか？
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にベンチがあり、日光浴をされる利用者の方もおられる。利用者が思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にベッドやたんすなど使い慣れた家具や備品を持ち込んで頂き、写真や趣味で作ったぬり絵やパズルを飾り個人の部屋として居心地良く過ごせるよう配慮している	個人の気に入ったものを部屋に持ち込んでいる。洗面やトイレは共用部にあり、部屋がリビングに出やすい環境である。共用部に収納スペースがあり、季節のものを入れ替えたりしている。	今後も、出来る限り自立した生活の継続を目標に、本人の現在の移動・移乗の状態に合わせた動線の安全確保ができるように、家族と相談しながら対応願います。
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には名前のプレートを置き、居間やトイレの場所は分かりやすく張り紙をするなど混乱や失敗を防ぎ安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している		